

第10回わくわくコンサート

代表者 中村幸歩（教育学部学校教育教員養成課程4年）

1. 目的と概要

目的

一般の音楽会に参加することが難しい児童（特別支援学校等も含む）と保護者、サポートの必要な方等を対象とした音楽鑑賞会（「第10回わくわくコンサート」）を開催し、音楽鑑賞の機会を提供すると同時に、サポートの必要な方もそうでない市民の方々も共に集える「共生」の場の提供となることを目指す。

運営は、香川大学の学生を中心に構成された実行委員会が行い、サークル、卒業生・修了生、教職員、地域の方々、児童・生徒のボランティア、企業の協力を得ることで、地域社会との交流も目的とする。

この事業は、これまでに多くの市民の方々にご来場いただき、好評を得てきた。「わくわくコンサート」を改善し、継続的に実施することを目的とする。

概要

◆行事名 みんなで楽しむ音楽鑑賞会「第10回 わくわくコンサート」

■期日：2月12日（日） 13：00～15：30（開場12：30）

■場所：サンポートホール高松 3F 大ホール

■入場無料（整理券不要）

■主催：第10回わくわくコンサート実行委員会

後援：駐日欧州連合代表部 香川県 香川県教育委員会 高松市 高松市教育委員会

助成：（公財）サントリー芸術財団

平成28年度香川大学学生支援プロジェクト採択事業

（公財）明治百年記念香川県青少年基金助成事業

協賛：（公財）南海育英会 松楠会（香川大学教育学部同窓会）

幸楠会（香川大学教育学部後援会）

協力：香川大学E U情報センター（香川大学図書館）

ヤマハミュージックリテイリング高松店（株）レアスイート

2. 実施期間（実施日）

平成29年2月12日

3. 成果の内容及びその分析・評価等

以下のプログラムを企画し、実施した。

コンサートⅠ 室内楽 Chamber music

1. C. ドビュッシー：子どもの領分より Children's Corner
第1曲 グラドス・アド・パルナッスム博士
第3曲 人形へのセレナード
第6曲 ゴリウオーグのケークウォーク
2. F. ショパン：ワルツ第2番 変イ長調 作品34-1 「華麗なる円舞曲」 Chopin
3. S. カルディッロ：カタリ・カタリ（つれない心） Cardillo, Catari Catari
4. カミーユ・サン＝サーンス：動物の謝肉祭 -バージョンC- Carnival
第1曲「序奏と獅子王の行進曲」 C-dur (ハ長調)
第2曲「雌鶏と雄鶏 (Poules et coqs)」 C-dur (ハ長調)
第3曲「驃馬」 c-moll (ハ短調)
第4曲「亀」 Cancan (カンカン)
第5曲「象」 Contrabass (コントラバス)
第6曲「カンガルー」 c-moll (ハ短調)
第9曲「森の奥のカッコウ (Le coucou au fond des bois)」 Clarinetto (クラリネット)
第12曲「化石」 「Au clair de la lune」 (月の光に)
第13曲「白鳥 (Le cygne)」 Cello (チェロ)
第14曲「終曲 (Final)」 C-dur (ハ長調)

コンサートⅡ 指揮者 Conductor+Classic

1. W. A. モーツァルト：交響曲 No. 40 ト短調 K. 550 Classic (古典派)
第1楽章 モルト・アレグロ
2. G. ビゼー：『カルメン』より Carmen
花の歌（おまえが投げたこの花は）
3. F. ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 Op. 11 Piano Concerto
第1楽章 アレグロ・マエストーソ

- ・一般の音楽会に参加することができにくい方々はもちろん、子どもからお年寄りまで様々な年齢層のお客様に楽しんでいただけるプログラムを用意した。また、入場無料ということにこだわり、音楽会に参加したい人なら誰でも参加することのできる音楽会を運営した。
- ・「音楽鑑賞会」の今年のテーマは「C」、Cに関わるプログラムで構成した。専門家からも「おもしろい」と高評価を戴いたプログラムとなった。
- ・音楽鑑賞会と同時に、その音楽を育んだヨーロッパの地理、歴史、文化などにも関心を深め、「音楽鑑賞会」をより身近に楽しむことができるような資料作成を行うことに努めた。演奏においては、プロとして活躍されている演奏者や地元で活躍されている方を演奏に迎え、香川大学生も演奏に加わり、市民の方々に楽しい演奏を提供することができたと考える。
- ・「ロビー・イベント」 テーマ地域：EU
前半と後半で異なるイベントを開催するなど、バラエティー豊かなイベントとなった。今年は、初めて大学院生を中心とした2グループも参加して2つのイベントを行った。一つは理科の専門知識をもつ大学院生たちによる「カップで鳴きまねコップ」という工作を取り入れたイベント、もう一つは「ちはやふる」によるカルタブームに着目して、EUをテーマとした「カルタ・Carta」を制作し、「EUカルタ」（イベント名）として活動した。

・運営

学生を中心とする実行委員会を組織した。様々な学生がそれぞれの得意分野を生かし、専門分野の先生方のアドバイスを得ながら運営した。また、香川大学の全6学部の学生や大学内の様々なサークル、卒業生・修了生、教職員、地域の方々にもご協力頂いた。楽器体験では、イベント前に楽器の専門家からの指導を受けたほか、実際にコンサートで演奏した学生に参加してもらうなど、専門知識をもってイベントを行うことができた。

当日は100名を越える学生ボランティアが参加し、特別支援学校の生徒も一緒に活動した。特別支援学校の先生方からは「子どもたちも楽しめており、とてもよかった」と言ってくれたことができた。

お互いに協力して一つの仕事を行うことで互いの理解を深める大変良い機会になった。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、子どもたちや地域の方々に身近で音楽鑑賞ができる機会を提供できたのではないかと考える。普段コンサートホールで音楽を聴きに来たいと願っていてもなかなか来ることができない方も多い。コンサートを無償とし、気軽に立ち寄れるコンサートとすることにこだわった。また、幼児教育を学ぶ学生が中心となって託児を行ったり、特別支援の専門の学生・教員のアドバイスのもと特別な支援を必要とする方々をサポートしたりと、誰でも参加していただける体制に腐心した。これらの工夫により、サポートを必要とする人たちと多くの市民が公共の場で場所と時間を共有できることで新しい相互理解や助け合いが生まれるきっかけとなったのではないかと感じる。大学にはたくさんの行事やイベントがあるが、学部の枠を越えて、さらに地域の方々の協力も得ながら学生たちを中心として一つのイベントを作り上げるものは多くない。「第10回わくわくコンサート」のように大学生と地域が共に作り上げるイベントは、大学と地域が共存し、刺激しあうことで、双方の活性化につながるのだと実感した。大学生と市民の方々が直接に交流する場となることで、互いをより身近に感じることもできた。

また、一般の音楽会に参加することが難しい児童(特別支援学校等も含む)と保護者、サポートの必要な方等を対象とすることで、様々な人が「共生」できる地域社会の推進を考える良い機会となった。互いに助け合うこと、支えあうことでみんなが不自由なく、楽しくすごせる心地よさを体感できるイベントになったと感じる。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この事業を通して特に2点考えさせられたことがある。

1点目は、連携する大切さである。このコンサートは、コンサート活動が中心であるが、音楽を専門とする人たちだけではこの行事は成立しない。香川大学の全6学部の学生や大学内の様々なサークル、卒業生・修了生、教職員、地域の方々の力があってこそ成り立ち、皆様に喜んでいただけるコンサートとして行事の役割を果たせる。香川大学生がサークルの枠を越え、多くの学生たちが協力し合っって学外で行う活動はなかなかない。ボランティアの学生たちは、専門分野の学生に他の得意分野を持つ学生も加わってチームを組んでいるため、相互にコミュニケーションをとって理解し、新しい視点を取り入れて作業することもできる。他の専門分野を学ぶ学生たちから新たな知識を得ることで、自分の専門とは違う視点で様々なことを見つめなおすこともできた。そして今年

は学部生のみならず、大学院生との連携も行い、新しい形でイベントブースを設けることで、より幅広い年齢層の方に楽しんでいただけたと思う。

2点目は、知識や理解を深めるきっかけとなるということである。

イベント開催にあたって、学生は関連する講習会へ参加したり、職員の方や教員と協力しあって準備を進めるなど万全を期した。そうすることで今回のテーマ地域の社会、歴史などについての知識を深めることができ、地域の文化に触れる良いきっかけや機会となった。また、サポートを必要とする方と接するためには各自が事前にその知識や理解をしておくことが必要となり、それを得る良い機会となった。そして互いに助け合える社会につながるような活動とすることができた。この貴重な経験をこれからの生活に活かしていきたいと考える。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省会で出た主な反省点は、以下の6点です。

- ・各ロビー・イベントの開催場所などをよりわかりやすく周知する工夫が必要である
- ・楽器体験をさらに円滑にできる工夫をする
- ・ホール内のドアの警備担当者（内と外）の連携をより深める
- ・途中入場できないことを、開始後に来場された方にわかりやすく掲示などで周知する
- ・ボランティアの役割分担をより明確にする
- ・アンケートなど配布資料の細かいチェック体制（より多くの目でみる）を作る（誤字脱字など）

今年もスムーズに運営することができた。昨年の課題を改善できたことが円滑な運営につながったのだと思う。よかった点も多いが、回を重ねるごとにまた新たな課題もでてくるため、緊張感を常に持ち、全員でよりよい活動に向けて邁進していきたいと考える。

次回、「第11回わくわくコンサート」は平成30年2月12日（月）の開催となった。来年度は「第11回」ということで、新たなスタートの年となる。実行委員会では今年の反省をしっかりと行い、改善を積み重ねてよりわくわくできるコンサートを作り上げていきたい。

7. 実施メンバー

代表者 中村 幸歩（教育学部4年）

構成員 石村 成美（教育学部3年）

山口 莉穂（教育学部3年）

小林 遼香（教育学研究科1年）

宮武 摩耶（教育学研究科1年）

岡島 有里（教育学部4年）

原田 双葉（教育学部2年）

国代 侑里（教育学部4年）

正 真帆（教育学部4年）

藤川 彩音（教育学部2年）

吉井 健人（法学部4年）

中川 晴加（教育学部4年）

山本 瞳（教育学部4年）

東山 莉奈（教育学部3年）

山辺 未希（教育学部3年）

杉本 恭子（教育学部3年）

島内 知美（教育学部3年）

寄能 ひとみ（教育学部4年）

小川 萌花（教育学部2年）

後藤 花歩（教育学部2年）